日本におけるラクロスの普及活動と歴史

Spread activity and the history of Lacrosse in Japan

1K04B013-8

池田 龍則

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 杉山千鶴先生

1、本研究の動機

私は、大学生時代、体育会ラクロス部に所属していた。このラクロスというのはどこでどのようにして生まれたのか。そしてどのように日本の中で発展していったのか。このことに興味があるというのが、本研究をすすめようとしたもっとも単純な動機である。

私は、大学の四年間でラクロスをプレーしてきた。この4年間、このスポーツは、確実に私の人格の一部を形成している。こんな大げさなことを言っているが、わたしは、このスポーツを知らなすぎる。自分を形作っているものが本当はどういうものなのか、それを知りたい。

ラクロスが日本に入ってきて20数年。急激に競技者数が増加している。こういった現状を日本では、どのように対応しているのか。また、どのように普及活動を行っているのか。それを知りたい。

ただ、ラクロスだけを見ても、いい考えは浮かばないと思いアメリカンフットボールと比較してみることにした。その理由は、その起源が北米であること、日本ではその2つのスポーツは大学スポーツとして知られており、大学から始める人が多いということ、日本にプロリーグがないことがあげられる。

これらの理由から、この2つのスポーツを比較し、ラクロスのこれからの普及のあり方について明らかにしていきたい。

2、本研究の目的

日本ではマイナースポーツであるラクロスがどうすれば普及していくのか。ラクロスの誕生から現在までの歴史の変遷をたどる。その変遷をたどる上で、ラクロス同様、北米で発祥したアメリカンフットボールと比較し、普及活動を検討する。

3、本研究の方法

本研究は、関連する文献の購読により行う。文献での情報が不足しているところの限っては、インターネット上の情報を参考にする。

4、各章の概要

<第1章> ラクロスの起源と変遷

北米の開拓者達は、ラクロスがインディアンによって広く各地で行われているのを目撃している。

カナダ移住インディアン達が、近代ラクロスのスティックの原型を作った。カナダ自治領が制定された1867年の同じ日に、ラクロスはカナダの国技と宣言された。

日本では、1986年に慶應義塾大学に初めてのチームが作られた。1986年春、慶應義塾大学に日本初のラクロスチームが誕生し、日本ラクロスの始まりとなる。

<第2章> 日本のラクロスの現状と問題点

1994年に、会員数は1万人を突破した。このような状況の中、日本ラクロス協会はどのような普及活動をしてきたのか。どのような問題点が発生してきたのか考えていきたい。

現在の日本のラクロスの問題点は大きく分けて3つある。それは次の3つである。

- ・ 競技者数の急激な増加
- ・ 指導者へのサポート、バックアップ
- ・ ラクロスの競技特性

<第3章> 日本でのラクロスとアメリカンフットボールの比較

ラクロスは協会やチームの基盤づくりや、運営の強化などが主になっている。一方、アメリカンフットボールは、そのスポーツ自体価値を高めていこうとしている。ラクロスは「競技力の向上」からラクロス自体の「価値」をあげる必要がある。

<結章>

日本で普及させるためにはラクロスを見、触れることができる場が必要である。小学校、中学校、高等学校で体育に取り入れてもらうことが普及、さらには競技力の向上につながるだろう